

# 平成30年春第6回盛岡信用金庫「桜の札所・絵画コンクール」 一次・二次審査の講評について

平成30年6月22日（金）盛岡信用金庫本町支店会議室において、佐藤 嘉彦 様、並びに、柳村 栄 様に一次・二次審査を実施していただきました。

当日は、平成30年春応募1,050点の作品の中から、一次審査において200点を選出していただき、二次審査にて50点を最終審査の対象作品として選出していただきました。

つきましては、佐藤先生、柳村先生より頂戴した講評を以下のとおりご紹介申し上げます。

平成30年春は、県内17小学校・1団体から1,050名の児童の皆さんより素晴らしい作品が出品されました。昨年度よりさらに200名を超える出品があり、このコンクールが平成25年にスタートして以来、関係者のご努力により学校や子供たちに親しまれ、県内に浸透して来ていることをうれしく思います。あらためて出品された児童の皆さん、そして指導された学校、先生方に敬意と感謝の拍手を送りたいと思います。

昨年度と同様に、前山岸小学校校長の柳村先生と共に第2次審査まで行わせていただきました。柳村先生には、小学校1年生から3年生までを、私は、小学校4年生から6年生までを担当させていただきました。

それでは、審査をさせていただいた作品の講評を述べさせていただきます。

まず最初に、小学校4年生の作品は、桜の木々に素直に向き合い、感じたままをよく見て描こうという姿勢が見られました。特に中心の幹が力強く描かれており、画面の安定感が際立ち、ダイナミックな作品が多かったです。また、桜の花びらの濃淡も筆のタッチの強弱を意識していねいに彩色されており、子供たちのすばらしい豊かな感性を感じることができました。

次に、小学校5年生の作品は、桜の木々を取り巻く周囲の景色もていねいに描かれていました。桜の木々が連なったり、重なったりしながら遠近感を感じる作品や桜の木々を下から見上げた時の空の青さが画面一杯に広がっている作品など、桜の木々の前で柔らかな自然を体一杯に感じ取っている子供たちののびやかな作品が多かったです。

最後に、小学校6年生の作品は、特に印象的だったのは、桜の花びらを根気強くていねいに描いている作品が多かったことです。また、その桜の木と共に愛着のある校舎や目の前に広がる芝生などの周囲の情景をうまく取り入れ、広がりや空間を感じる作品も多かったことです。作品全体に広がりやそして作者の生活感をも感じるさすが6年生の作品だと思いました。

今年度も作品を審査して、子供たちが桜の木々と楽しそうに会話している様子が想像でき、とても心が和む時間を持てました。指導された先生方におかれましては、子供たちに的確な表現の視点を与えていただいたことで、作品に個性がとても溢れていたと思います。

来年もまた、県内各地の多くの学校から子供たちの素晴らしい桜の札所・絵画が出品されることを期待し、またその作品と出会うことを楽しみにしています。



盛岡教育事務所

佐藤 嘉彦

## ○審査員 佐藤 嘉彦 様 略歴

盛岡市出身

盛岡第三高等学校卒

福島大学教育学部美術科卒



昭和54年4月～田野畑中学校、岩泉中学校、上田中学校 教諭

平成 6年4月～普代村、旧山形村、久慈市、滝沢市

各教育委員会

平成19年4月～八幡平市立西根中学校校長

平成22年4月～滝沢村立滝沢第二中学校校長

平成25年4月～盛岡市立上田中学校校長、

岩手県中学校長会会長、県美術館協議会委員 他

平成28年4月～盛岡教育事務所 教育相談員、

盛岡大学非常勤講師

平成30年4月～盛岡教育事務所 在学青少年指導員、

盛岡大学非常勤講師



前 盛岡市立山岸小学校校長

柳村 栄

平成30年春は、県内17校・1団体から1,000点を超える作品が寄せられました。たくさんのお子どもたちがこのコンクールに参加し、東北復興のシンボルである“桜”への思いを表現してくれていることを嬉しく思います。

応募作品が広げられた審査会場は桜が満開で、もう一度お花見をしているような華やかでさわやかな気持ちになりました。

さて、私は低学年を中心に担当しましたので、低学年の作品について感想を述べさせていただきます。

1年生の作品は、作品の多くが桜の幹や枝をクレヨンで描き、花びらを絵の具で彩色していました。思い切りのいい作品、丁寧に描いている作品、色彩がカラフルな作品、こだわりが感じられる作品など、感じたことを素直に表現する子どもらしさがあふれる作品に心を奪われました。

2年生の作品は、クレヨンの重色や混色を工夫して質感のある桜の幹が表現されていました。絵の具による彩色の割合が増え、桜の花は筆で色を置いていく点描を中心にしながら丁寧に描かれていました。桜の木だけではなく周囲や背景への意識も感じられました。

3年生になると、桜の木を中心にその周囲や背景もしっかりと描いた作品が多くなりました。彩色も工夫され、花びらの重なりや色の変化が鮮やかに描かれていました。観察力や表現力の確かな向上を感じました。

私たちの身近にある桜の花、その桜を描くことで桜の美しさや華やかさ、さわやかさや優しさ温かさを改めて感じることはできたのではないのでしょうか。そして、そのことが本コンクールの趣旨である「自然を大切にする心・郷土を愛する心を育む」ことに繋がっていくのだと思います。

来年もみなさんが心を込めて描く桜の風景を楽しみにしています。

○審査員 柳村 栄 様 略歴

滝沢市出身

盛岡第三高等学校卒

岩手大学教育学部中学校教員養成課程科卒

昭和55年4月～下有住小学校、仁王小学校教諭

平成 9年4月～一戸南小学校、北松園小学校、  
青山小学校教頭

平成19年4月～洋野町立種市小学校校長

平成23年4月～盛岡市立城北小学校校長、  
岩手県造形教育連盟会長 他

平成26年4月～盛岡市立山岸小学校校長、  
東北造形教育連盟会長、  
岩手県小学校長会会長、  
全国連合小学校長会常任理事 他

平成29年4月～盛岡市保健福祉部長寿社会課  
もりおか老人大学事務局



一次・二次審査 平成30年6月22日（金）於：盛岡信用金庫本町支店会議室

